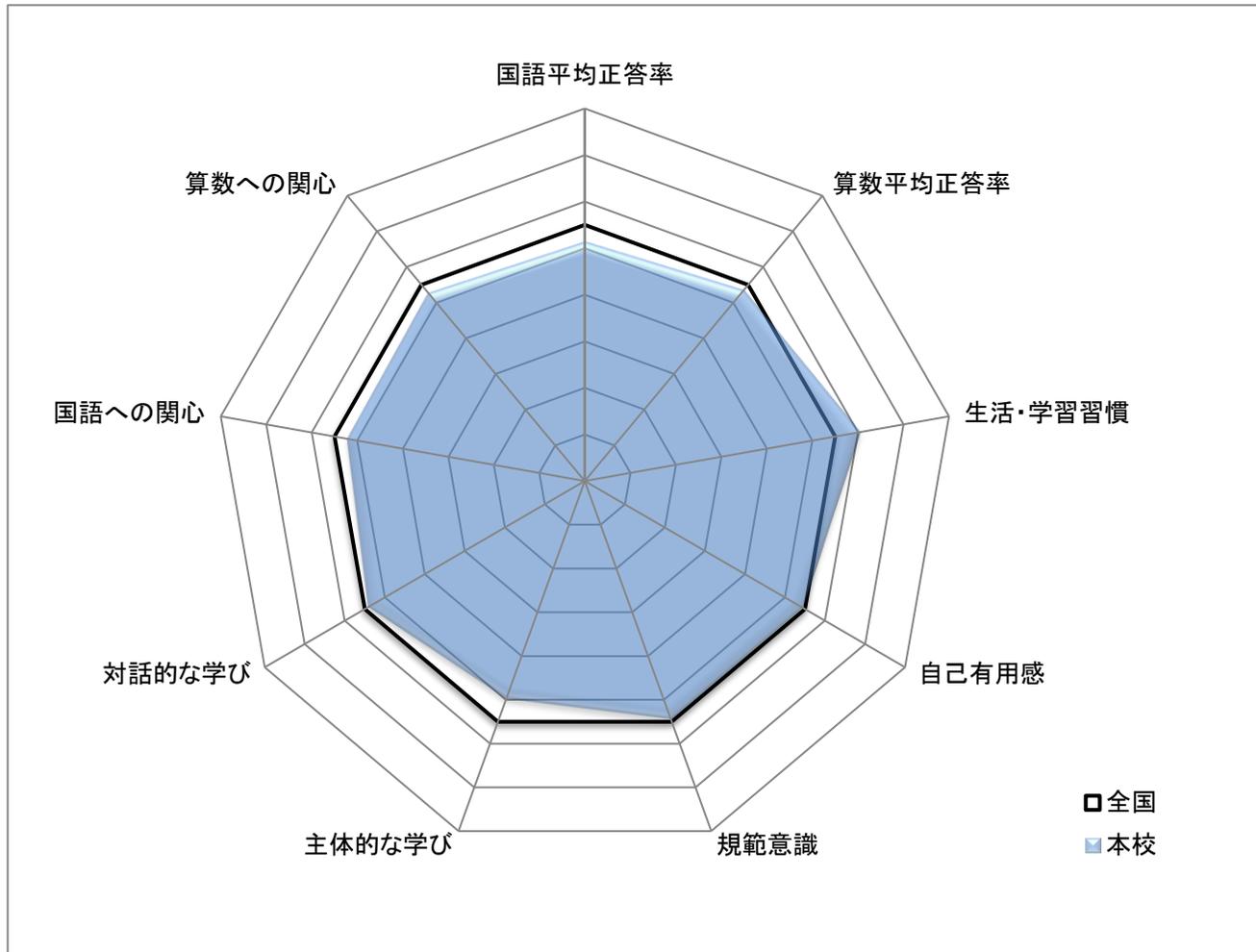


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語科では、平均正答率は60%で全国平均を4.7%下回った。3ポイント以上下回った問題は9項目あった。特に、主語・述語・修飾語の関係については正答率が低い。また、正しく文を書き直す問題では、無回答が15%と全国平均と比べても6ポイント上回った。算数科の平均正答率は、68%で全国平均を2.2%下回った。全国正答率から3ポイント以上下回った問題は7項目あった。特に、「変化と関係」「数と計算」が5.5ポイント下回った。

《授業改善のポイント》

国語科は、文章全体の構成や展開を考えて書くことを不得意とする児童が多い。そのため、文章構成・順序（はじめ・中・おわり）などを捉えられるように指導する必要がある。低学年から、文章の組み立てを意識して読む習慣を付けさせる。書く時には、教科書の手本などをもとに書く時の構成を理解させる。家庭学習の音読を計画的に取り組ませる。

算数科は、習熟度別の指導を取り入れているので、きめ細やかな個に合った指導をこれからも継続する。またベーシックテストの結果を基に数値の低い単元を抜き出し、朝学習でプリントに取り組ませる。

各教科、単元ごとに、児童の評価をし、実態を把握していく。つまずきが見られる児童には、声をかけていく。

《チャートの特徴》

算数科・国語科ともに正答率が、全国平均を下回った。また、国語科・算数科への関心についても平均を下回った。対話的な学習については、平均と同等の数値である。主体的な学びは、平均を大きく下回っている。

規範意識が高く、実際の学校生活においても校内のきまりを守る児童が多い。学習面においては、失敗を恐れなくて挑戦することや、自己表現することに対して消極的な児童が多い。そのため、朝学習の時間を使って、既習事項の確認を行ったり、授業では、自分の考えや振り返りを記入させたりしながら、学習の積み重ねを大切に、自信をつけさせていく。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会や個人面談を通して児童の学習状況を丁寧に伝えていく。学力定着のため、漢字学習・音読・計算などの家庭学習についても家庭に協力をお願いする。eライブラリの活用については、学校だよりで活用方法を知らせるなど工夫をして情報を発信していく。